

次世代に伝えたい芝川の氾濫の歴史

§1 研究について

研究背景

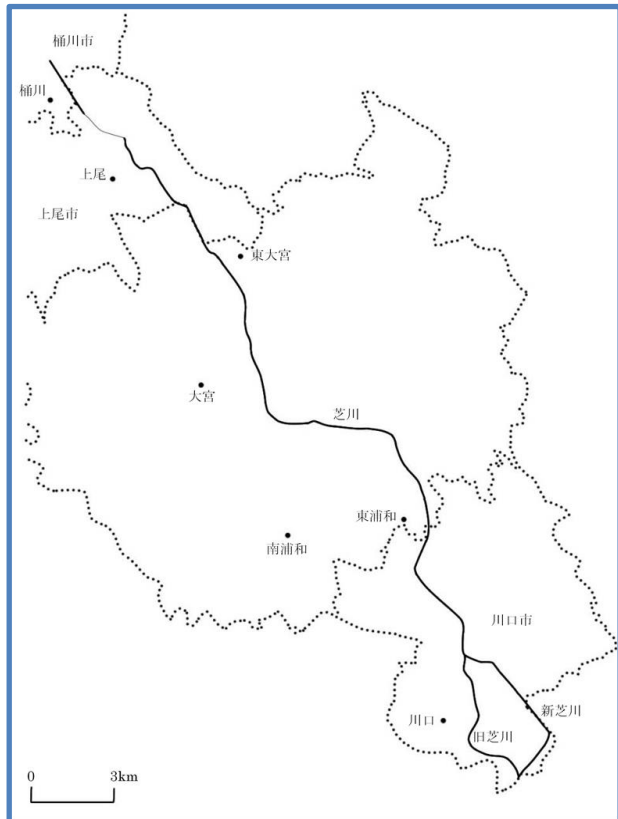
理科学研究部では芝川が本校のすぐ隣を流れていることもあり、1988年の創部以来水質をはじめ、毎年テーマを定めながら芝川についての研究を行っています。

- ・ 9月27日に上陸した狩野川台風は静岡県を中心に死者888名を出した台風でした。*1
- ・ 埼玉県内では風こそ弱かったものの、川口では392mm/24hと記録的な大雨が観測されました。*2
(気象庁の正式な記録として残っている埼玉県の日降水量の最大値は令和元年東日本台風の288.0mm/24h)*3(2020年8月末現在)
- ・ 芝川の氾濫によって川口市では床上浸水14850戸、床下浸水8950戸、計23800戸が被害にあい、市内が「泥水の町」と化しました。*4

ボートに乗って避難する住民
(埼玉新聞社撮影報道写真S330927-051.TIF)



川口商工会議所,2006.10,川口の記憶 70年の軌跡,62pp.



図① 芝川全体図

近年の日本では平成30年7月豪雨(西日本豪雨)や令和元年東日本台風(令和元年度台風19号)をはじめとする大雨により各地で河川が増水をし、氾濫が発生しています。

この令和元年度東日本台風は後述する狩野川台風と進路や強さが似ていましたが、静岡県内では狩野川台風で教訓を経ていたのためか死者はいませんでした。

この例を参考にし、過去の水害の凄惨さを伝えることで防災・水害に対する意識を高めることができると考え、今後の被害を減らすために芝川の過去の水害から学び、それを伝えていこうと思いました。

研究概要

§ 3 1966年の水害 (台風4号の記録)

被害

- 6月28日に上陸した台風4号により、行田では332mm/24h、川越でも331mm/24hの雨量が観測されました。*2
- 県内では小河川の氾濫が相次ぎ、芝川流域では床上浸水6770戸、床下浸水20973戸、計27743戸と甚大な被害を出しました。*4



一面が浸水している川口市内

(埼玉新聞社撮影報道写真S410630-045)

これらの台風の間に氾濫による浸水対策のための事業として、1957(昭和32)年～1965(昭和40)年に新芝川放水路が掘削されましたが効果は十分ではなく、台風4号をはじめとした被害が起きてしまいました。

§ 4 最後に

近年、全国各地で氾濫が起こっており、水害が身近なものになってきてしまっているため、いつ、もしもの事態が起こっても大丈夫のように普段からの心構えが大事になります。

国や地方自治体は護岸工事や調節池などの治水施設の建設を行っているが、それらには財力、技術力、長い年月が必要になります。

そのため、国や地方自治体だけに頼るのではなく、個人の取り組みとして何よりも大事な命を守るために

- ◎災害に対して常にアンテナを張る
- ◎避難指示が出たら直ちに避難
- ◎家庭でもしもの際の備えをする

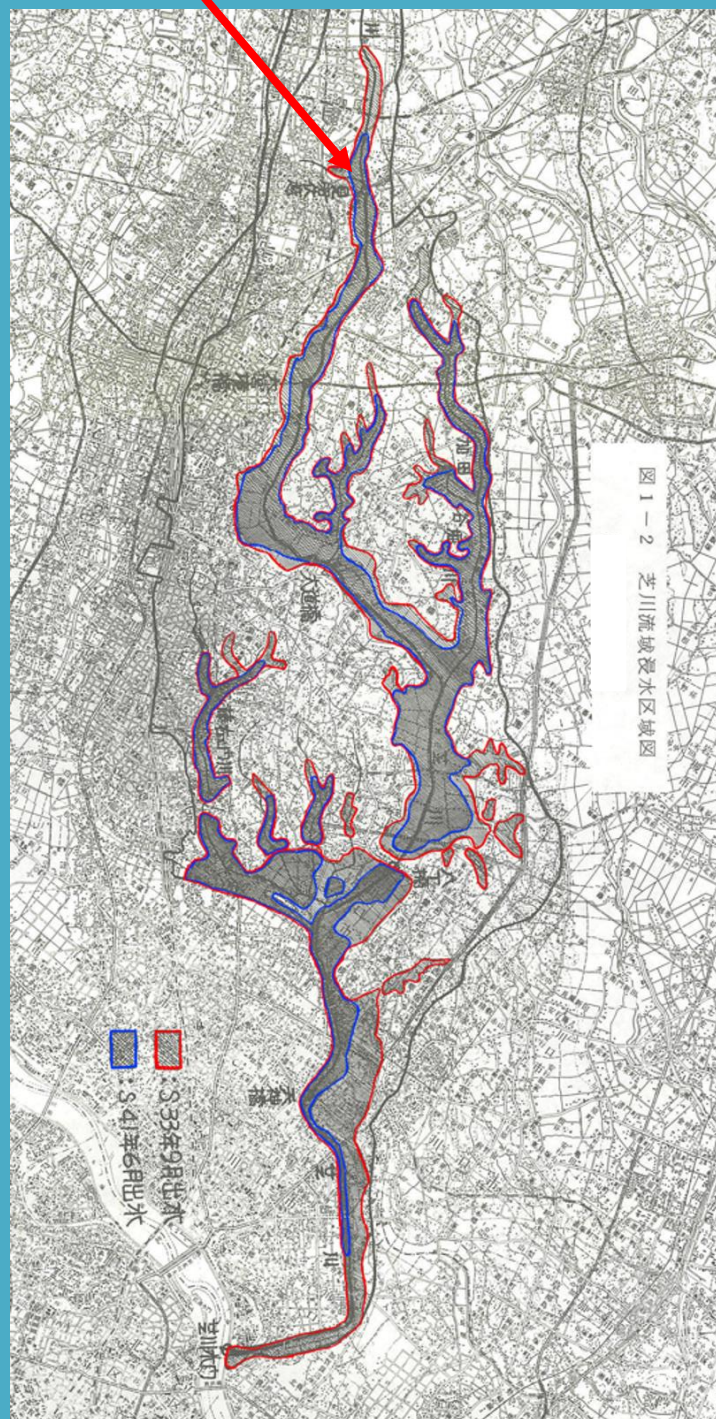
等の防災意識を高めることと並び、

- ◎自分の故郷や今住んでいる土地の歴史
 - ◎どこに避難すればいいのか
 - ◎どこが危ない場所なのか
- 等を学ぶことによって被害をできる限り小さくすることができます。

川は私たちに恵みを与えています。しかし、時には牙をむく時もあります。そこで、川と共存をするためにも防災・身近な川への意識を高めていただけると幸いです。

当時学校があったら
被害を受けていた

栄東中学・高等学校



狩野川台風と台風4号における芝川の氾濫被害*4

赤・・・狩野川台風 青・・・台風4号

参考資料

- *1...「狩野川台風」～100年に1度の風水害
- *2...埼玉県気象災害
- *3...気象庁ホームページ
- *4...埼玉県芝川氾濫記録データ

埼玉新聞社により撮影されました写真2点は、埼玉県立文書館よりご提供頂きました。